

カトリック河原町教会だより

2017年7月新聖堂建立50周年記念号

新聖堂献堂から50年を迎えて“受けた恵みを分かち合う教会に”



明治村の旧ザビエル聖堂でのミサ

新聖堂建立50周年記念ミサが、教区交流月間行事を兼ねて、6月17日(土)12時から明治村旧聖堂で捧げられました。大塚司教、済州教区のナム神父、キム神父、そして教区の瀧野神父、菅原神父、チェ神父、キム神父、ノーサル神父、ホン神父の共同司式で、信徒約200名が参列し、懐かしい聖堂で祈りを捧げました。

また、翌18日10時半のミサも50周年を記念して、大塚司教、一場神父、チェ神父と済州教区の2名の司祭の共同司式で捧げられました。大塚司教は説教の中で「奉納と拝領」に焦点を当て、次のように語られました。「私たちが生活の中で“手”による労働・知恵・汗・失敗・嘆きや悲しみをもって生み出す“すべてのもの”を捧げた時、神はそれを大きな“恵み”に変え、私たちに与えてくださいます。その恵みを“心”を開き感謝して“手”で受け取り、独り占めするのではなく、個人としてまた共同体として、分かち合うために出かけていきましょう。聖堂は聖なる場所です。与えられた聖堂を感謝し、私たちのこの“聖なるつとめ”を心に、共に歩んでいきましょう」。(編集委員)



6/18ミサで

「福音を喜びとし伝え続ける共同体になろう」

新聖堂建立50周年という喜びの時を迎え、神様に、そして共同体の皆様にも、担当司祭の一人として、心より感謝申し上げます。

新聖堂の歩みは、第二バチカン公会議直後の1967年に始まりました。第二バチカン公会議は、私たち教会が、福音の喜びを分かち合い、その福音の喜びを教会にとどめておくことなく、この世界の中で伝え続けるように呼びかけています。世の光となって、世界に喜びと希望を伝えるように呼びかけています。そして、新聖堂建立20周年の1987年、この新聖堂で、第一回福音宣教推進全国会議(NICE)が開催されました。第二バチカン公会議と共に産声をあげた新聖堂の成人式ともいえる集いでした。

「ともに喜びをもって生きよう」という決意をもって、日本のカトリック教会は、この新聖堂から新たな歩みを始めました。



洛東ブロック担当 一場 修 神父

この新聖堂に集う人びとに聖霊が降り、「ともに喜びをもって生きよう」という福音が広がっていきました。

私たち河原町の共同体は、新聖堂建立50周年を迎えた今も、福音の喜びを伝え続けています。ともに喜びをもって生き続けています。福音の喜びをさらに大きくしようと、さらに広げようと、さまざまな活動を行っています。特に、弱い立場に置かれている人びとと共に歩む活動に力を入れています。それと同時に、今の社会の現実の中で、福音宣教していく難しさも経験しています。しかし、私たちは、困難な状況だからこそ、福音を喜びとし伝え続けたいと思います。今年2月に列福されたユスト高山右近のように、困難な中でこそ明らかになる真の喜びを伝えていきたいと思っています。

【写真：第二バチカン公会議】

～河原町教会新聖堂建立から～ 50年の歩みを振り返る

1967年 6/17旧聖堂とお別れ。6/18新聖堂に移る

(当時:古屋司教/司祭:丸山師・藤堂師・泉師)

1968年 ステンドグラス除幕式

1969年 12/20 河原町教会で日本語ミサ始まる。初めての市民クリスマスの集い。藤堂神父転任

1970年 ロイヤルホテル起工式

1972年 1月茨木神父着任。2月聖マリア像の除幕式。3月パイプオルガンの祝別式。10月聖堂入口聖母子像除幕式。10月カトリック会館の使用が始まる。

11/23 新聖堂祝聖式(献堂式) [沖縄返還]



新聖堂祝別式 1967.6.18



聖堂屋根リブ構造

～「河原町教会 宣教百年の歩み」から～

「昭和42年6月18日、古屋司教によって、新しく建てられた新聖堂の祝別式が行われ、多数の信者が列席した。その後旧聖堂でのミサが終わり、御聖体が新聖堂に移されて直ちに新聖堂最初の聖体降福式が行われた。大理石が光る白一色の祭壇右の金色の聖櫃に赤い聖体ランプが灯り、以後ミサはこの新聖堂で行われることになった。ひとつの御像、聖母マリア、聖ヨゼフの御像も見られず、ステンドグラスが入るはずの窓は白い磨りガラスだけで、驚くほど明るく感じられた。献堂式はカトリック会館が入るロイヤルホテルの完成を待って行われるまで、5年半の歳月を待つことになる」

◆1969年司教教書～新しいミサ典礼の実施に際して◆

「…次の日曜日からのミサは、もちろん全部日本語で行われます。御ミサで行われること自体の意味がもっとよくわかるように、式の順序や祈りも改められています。司祭が今まで小声でラテン語で唱えていたところも日本語になり、その式自体が今度の「パンを供える祈り」のように、もっと深く聖体の祭儀そのものの意味を表すようになりました…」 (古屋司教)

(1969.12.14イクトウスから引用)



新聖堂起工祝別式



藤堂神父と子どもたち



ステンドグラス(1968年除幕式)

スイスのハンス・シュトッカー氏製作。写真は大天使ミカエル。守護聖人フランシスコ・ザビエルと、奥に向かって十字架の道行き14場面と主の復活が、日本列島の輪郭を模して配されています。祭壇正面は天地創造のイメージを表現。天頂近くに神の子羊を見ることができます。



1972.11.23 新聖堂祝聖式入堂の行列



パイプオルガン(1972年祝別)

ドイツ・ボッシュ社製作。22ストップ、2段鍵盤、平行ペダル、パイプ数は1509本です。同志社栄光館について、京都で二番目のパイプオルガンとなりました。カテドラルにふさわしく、今も荘厳な美しい音色が響いています。



新聖堂前で



茨木晃神父



聖堂入口聖母子像(1972年除幕式)

イエスが聖母マリアを讃えている姿で、冠の代わりに、マリア頭上のイエス様の小さな5本の指は、マリア様への尊敬と感謝を表し「マリアを通して平和を」との願いで作られています。ブロンズ像で、高さは2.8m。作者は木内克氏です。

(当時も教会活動が活発に行われていた。既婚男性信徒の会「ヨゼフ会」と既婚女性信徒の会「マリア会」はじめ、「青年会」「典礼部」「土曜学校」「ロザリオ会/家庭集会」「レジオ・マリエ」「ヴィンセンシオ・ア・パウロ会」等々、それぞれ活発に活動していた様子が、教会報「イクトウス」の所々に記されている)

1973年 3月旧聖堂が明治村で復元(ミサ参加者は273名)。

丸山神父司祭叙階25周年。村上透磨神父着任

1976年 6月聖堂の聖ヨゼフ像除幕式。古屋司教引退。

9/23田中健一司教叙階式 [司祭銀祝の年]

(この頃の信仰入門講座担当司祭:東門師・ゴダード師・ヘーシュベック師・茨木師)

1977年 丸山神父高野教会へ異動(河原町教会在任30年)。

東門神父西陣教会より着任

1978年 古屋司教司祭叙階50年金祝。ゴダード神父転任。

河原町教会キリシタン研究会発足

1979年 ウォーカソン開始。高山神父着任。

7/14「日本二十六聖人」顕彰碑除幕式

[マザーテレサ ノーベル平和賞受賞]

1980年 2/3「教会宣教100周年記念」ミサ

[1880年2/5の初受洗から8,707名が受洗]

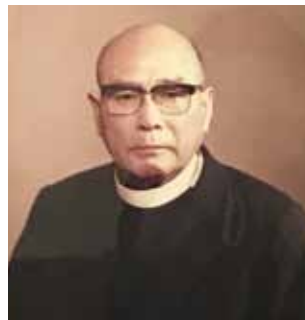
1981年 ヨハネ・パウロ二世初来日。11/23京都教区ビジョン宣言「社会と共に歩む教会」が出される。

1982年 記念誌「河原町教会 宣教百年の歩み」発刊。

5/24藤堂隆神父帰天

1984年 3/20大塚喜直司祭叙階

1985年 高山神父司祭叙階25周年。聖堂への障がい者用昇降装置設置



丸山吉高神父(1951~1977在任)



左:東門洋二郎神父着任 1977



東門神父を囲んで



若き日の村上透磨神父



ゴダード神父



右:高山信徳神父



田中健一司教叙階式 1976.9.23



古屋司教と田中司教(左)



教会宣教100周年記念ミサ



復活祭に

「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。この広島町の、この平和記念堂ほど強烈に、この真理を世界に訴えている場所はほかにありません」

ヨハネ・パウロ二世「平和アピール」より



ヨハネ・パウロ二世1981.2. 広島から長崎へ

- 1987年 第一回福音宣教推進全国大会(NICE)開催(1)
9/23 教区50周年記念ミサ
- 1988年 6/22 丸山吉高神父帰天(享年73歳)
- 1991年 2/2 パウロ古屋義之司教帰天(享年90歳)
東門神父転任。ナドウ神父着任
(信仰入門担当司祭:ナドウ師、村上師、茨木師)
- 1993年 ナドウ神父転任。村上眞理雄神父着任
(信仰入門および聖書の集い講座担当:村上透磨師・茨木師)
- 1994年 教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡『紀元2000年の到来』発表。スタインバック神父帰天
- 1995年 [阪神・淡路大震災]
- 1996年 日本二十六聖人殉教四百年祭in京都。大聖年を前に教皇使徒的書簡「紀元2000年の到来」発布
- 1997年 南部地区東ブロックとして共同司牧に移行。
田中健一司教引退。6/15大塚喜直司教叙階(2)
- 1998年 教区カトリック協議会の発足。ホセ・モンロイ神父着任。村上透磨神父転任
- 1999年 12/25キリスト生誕2000年大聖年開幕記念ミサ。
ザビエル渡来450年記念。村上眞理雄神父転任。
浅田年生神父着任。3/30岡神父帰天
(信仰入門講座担当:浅田師・モンロイ師・茨木師)
- 2000年 2/6宣教120周年記念ミサ
11/23「キリスト降誕2000年大聖年ミサ」(3) [パトリック・バーン司教殉教50周年追悼ミサ兼ねて]
- 2001年 1/5大聖年閉幕ミサ。9/23田中司教司祭金祝・司教銀祝ミサ。大塚司教年頭書簡「宣教司牧がめざしていくこと」を発表
(信仰入門講座担当司祭:浅田師・茨木師)
- 2002年 新聖堂35周年記念、大改修工事。9/1 京都カナの会創立50周年記念ミサ。茨木晃神父帰天
- 2004年 9/29「都の聖母小聖堂」献堂祝別式
- 2005年 教皇ヨハネ・パウロ二世帰天。ベネディクト十六世教皇着座。5/21村上眞理雄神父金祝
- 2007年 4/2浅田年生神父帰天(司祭生活48年)。
花井拓夫神父着任
- 2008年 11/24ペトロ岐部と187殉教者列福式(長崎)。列福にあたり京都の52名殉教者を記念して「殉教の間」を設置。
グンテル神父着任。ガロ神父着任
- 2009年 3/21大塚司教司祭叙階銀祝。12/19東門神父金祝
- 2011年 京都南部地区新ブロック編成、洛東ブロックに。済州教区からプ神父、チェ神父京都へ。ガロ神父転任。鶴山神父着任 [3/11東日本大震災]
- 2012年 12/28松本秀友神父帰天。溝部脩司教望洋庵に。
- 2013年 2/28教皇ベネディクト十六世退任。3/13フランシスコ教皇着座。一場神父洛東ブロックに着任。
聖堂エレベータ完成。キム神父京都へ。
- 2015年 2/11花井神父金祝。9/4村上眞理雄神父帰天。
洛東ブロックにモンロイ神父、キム神父着任
- 2016年 「いつくしみの特別聖年」。2/29溝部脩司教帰天。
1/6村上透磨神父金祝
- 2017年 2/7高山右近列福式。3/20大塚乾隆司教叙階。
キム神父転任。菅原友明神父着任

(1)NICE京都会議のお知らせ

11月20日夕方から23日まで、第一回全国福音宣教推進全国会議が京都で開かれる。北海道から沖縄まで全国16教区から司教17名、神父各5名、シスター各3名、信徒各5名、招待者4名、広報20名、実行委員20名、書記団京都60名、大阪30名、シスター20名、これだけの方が京都に参集されます。…この第一回会議が実りあるものとなり、第二回会議のための頑丈な踏み台となるよう祈りましょう。

(「イクトウス」1987.11月号から)

「開かれた教会に・ともに喜びを持って生きよう」

神であるにもかかわらず兄弟の一人となられたキリストにならい、全ての人に開かれ、全ての人への恵み、力、希望となる信仰共同体を育てよう努めたい。

(「第1回福音宣教推進全国会議参加者一同の宣言」から)

(カトリック中央協議会HPから)



(2)大塚司教叙階式 1997. 6. 15(洛星高校にて)



TUBILAEUM
= 聖年

(3)2000年大聖年シンボルマーク

大きな円形=地球、5羽の鳩=五大陸に住む人類、十字架=宇宙と人類を支え治めるキリストの象徴。十字架が5羽の鳩と同色であることは、キリストの「受肉の神秘」を表す。大聖年のモットー「キリストは、きのうも、きょうも、永遠に、世界の救い主である」ことを表している。



ナドウ神父
(1991~1993在任)



村上眞理雄神父
(1993~1999在任)



浅田年生神父
(1999~2007在任)



2017. 6. 4南部地区合同堅信式後の懇親会で

「日本のカトリック教会の未来に向けて」 洛東ブロック担当 ホセ・モンロイ神父

50年前、日本のカトリック教徒の数は約45万人でした。そして、現在もその数はほとんど変化していません。私は疑問に思います。その原因は一体何でしょうか？

私の答えが正しいとは限りませんが、少し私の考えを述べたいと思います。一つは、自分自身の問題によると思います。言い換えると、私たちは神と出会い、神との関係において生きていますが、私たち個人の信仰に留まってしまっていないでしょうか。私たちの周りの、まだイエスのことを知らない兄弟のことを特にあまり気にしていないのかもしれませんが。またキリストは、「あなたがたは行って、すべての民を私の弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授けなさい」という使命を残されました。しかし、この言葉を自分に向けられたものとしてではなく、誰かほかの人々に言われた言葉であるかのように考えてはいないでしょうか。

私たちの教会でも、信徒の協力がなければ、教会の働きは弱くなるでしょう。それは、いろいろな事実が示しています。例えば、キリスト教開花時代の「祈り」も、風土や場所によって重んじられていないこともありました。また、考えるべきもう一点は、司祭の減少です。キリスト教の発展の時代、司祭はたくさんいました。ところが、今はそうではありません。私たち信徒は、より神に「忠実」であるようにと願い祈りたいものです。



では、私たちは、どのようにすればよいのでしょうか。

- ◆ 第一に、ただ、主イエスに従いましょう。
私たちは、私たちが住んでいる世界(家庭・職場・友人たち・地域の人々など)に出て行き、私たちがイエスの「み言葉」をできるかぎり伝え、証しできるよう、心を配って生活しましょう。
- ◆ 第二に、まだイエスを知らない人たちに教会を紹介しましょう。
私たちは、教会での大きなイベントに隣人を招待することもできます。例えば、クリスマスやコンサートなどに。教会はあらゆる人々に開かれているのですから。
- ◆ 第三に、まだイエスを知らず、洗礼を受けていない私たちの兄弟姉妹のために熱心に祈ることです。広く一般的に祈るだけでなく、自分の身近な友達や家族を心に留めて祈りましょう。
- ◆ 最後に、私たちは可能な限り主のわざに奉仕しましょう。私たちの小さなわざは、神様によって多くの実を結ぶであろう、という確かな信仰と、大きな希望をもちましょう。

日本の教会の未来は、私たちの手の中にあります。それぞれの場で、ますます主の働きに協力しましょう。そして、司祭の召命を願って収穫の主祈りながら、喜びをもってともに歩んでいきましょう。

～主は私の光、わたしの救い～

洛東ブロック「中高生のつどい&青年のつどい」

5月13日(土)～14日(日)、洛東ブロック「中高生のつどい&青年のつどい」が山科教会において行われました。洛東ブロック合同教育部会では、毎年「中高生のつどい(錬成会)」を行ってきました。また、2016年3月には「中高生のつどい」、11月に「青年のためのミサ」を行い、若い世代の信仰育成に取り組んでいます。今年とはくに、「2017年度洛東ブロック年間計画」4項「中高生・青年のために、「高山右近の生き方」、「ラウダート・シ」を学び、分かち合う集いを行う」(教会だより4月号既載)に沿って行われたものです。

「中高生のつどい」のテーマは、「よろこびをつたえよう」で、右近の生き方を学びました。指導は菅原神父様。参加者は、高校生3名、中学生6名の計9名、青年リーダーは7名でした。食事や布団など諸々のお世話は、おもに山科教会の皆さんがしてくださいました。2日目は、山科教会の主日のミサとは別に「青少年のためのミサ」をささげ、このミサの時間から、ブロック約20名の青年たちが合流しました。そしてミサの後、中高生と青年、スタッフがそろって、バーベキューで盛り上がりました。4つの小教区共同体が洛東ブロックとしてひとつになり、この行事を行えたことは、大きな恵みであり実りです。これからも4教会で手を取り合って青少年の信仰育成に力を注いでいきたいと思います。青少年が、喜びを持って「喜びを(イエスさま)を伝える」キリスト者になれるよう祈りながら。(教育部:奥笠さと子)



「十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです」

(Iコリント2・2)

洛東ブロック担当司祭

菅原 友明 神父

キリスト教は誕生してから今日まで、2000年にわたって、十字架につけられたキリストを伝え続けてきました。十字架上で惨めな姿で死んでいるキリストの姿は、弱さと惨めさと愚かさの極みです。

パウロはコリントの教会の人たちに、自分が衰弱し、おそれに取りつかれて、ひどく不安であることを告白しています(Iコリント2・3)。パウロというと、迷いのない信仰を抱き、恐れを知らずに、勇猛果敢に、意気揚々と、嬉々として福音を告げ知らせていた強い人のような印象がありますが、彼の手紙を読むと、いたるところに、「自信喪失」や「不安」や「恐れ」にさいなまれていた彼の姿が見出されます。また、あれだけ多くの人に福音を伝えたのだから、相当な雄弁家だったのだろうと思ってしまうのですが、かえって、「実際に会ってみると弱々しい人で、話もつまらない」(IIコリント10・10)とやられていたそうです。

そんなパウロは、「神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです」と語っています。私たちは、元気で楽しくて幸せな時、自分の信仰生活が成功していると思うかもしれませんが、反対に、孤独や不安や倦怠感に襲われて、祈りも聖書も教会も楽しくもなんともないようなとき、これ



ではダメだと思えるかもしれません。でも、パウロはこう言います。「あなたがたは、うわべのことだけ見ています」(IIコリント10・7)

キリスト教が伝えてきたものは、十字架につけられたキリストであることを、どんなときにも心に留めておくことが必要なのだと思います。疲れ、倦怠感、無気力、孤独、不安、憂鬱、自信喪失、意気消沈…、そのような私たちが日々抱えている十字架を通して、「神の秘められた計画」が実現していくことに心のまなざしを向けてみるのができたら、うわべの「無意味」が、「意味」で満たされていることが見えてくるのだと思います。

明るく賑やかできらびやかな都市の輝きの中で、充実感や楽しさを感じられなければ無意味だというような価値観を、自分自身にさえ押し付けてしまいがちなのが私達です。そんな中、繁華街の中にいつもひっそりと佇んでいる聖堂、そこで十字架のキリストは語りかけてくださいます。河原町三条で今の聖堂は、人間を引きつける優れた言葉や知恵を自信満々、声高々にまき散らすのではなく、「十字架につけられたキリスト以外、何も知るまい」という静けさをたたえて、この場所に立ち続けてきて、これからも立ち続けていくのだと思います。50周年という節目にこの教会を担当させていただいている私も、「十字架につけられたキリスト以外何も知るまい」という原点に立ち返れたらと思っています。

「新聖堂建立50周年行事・記念ミサ、感謝ミサ他」

新聖堂建立50周年記念行事委員 越知 謙之助

新聖堂建立50周年行事として企画いたしました、6月17日の明治村旧聖堂での「記念ミサ」は、大塚司教様はじめ9名の司祭団に、洛東ブロック、京都南部地区にとどまらず、京都北部ブロック・滋賀ブロック・奈良ブロック・三重地区と京都教区全体からも多くの信徒の方にご参加いただき、少し薄暗い旧聖堂でいつもと少し雰囲気の違いが感じられるミサを共に捧げることができましたことを感謝いたします。

そして6月18日の新聖堂での「感謝ミサ」は、京都済州姉妹教区交流月間行事を兼ねて、大塚司教様と済州教区のキム・ソッスン神父様、ナム・スンテク神父様、そしてチェ神父様、一場神父様の5名の共同司式で捧げられました。京都済州姉妹教区交流のためにも祈られ、済州のお二人の神父様に花束の贈呈をするなど和やかなムードの中で、多くの信徒と共に50周年を感謝しお祝いすることができたのは大きな喜びです。

引き続きヴィリオンホールで行われました祝賀会には、済州教区のお二人の神父様もご参加いただき、連日のため高齢の方は少し少なかったですが、若い方も加わって、用意された軽食をいただきながら、神父様方とまた信徒同士が自由に話し合い、良い分かち合いの場となり、あっという間に時間が経過していきました。

50周年行事としては、3月にマタイ受難曲のコンサートを行い、7月2日にはパイプオルガンコンサートを行います。そのほか、聖堂モニターの新調をはじめ、聖堂椅子のクッションの張り替え、地下各部屋の整理整頓を本年中に進めていきます。

「記念ミサ」「感謝ミサ」に京都教区中から多くの方々にご参加いただき、共に祈りいただきましたことを忘れずに、カテドラルとして、次の世代へ福音を宣べ伝えられる、京都教区の典礼・宣教の中心としてふさわしい共同体になっていけますよう努力してまいります。今後ともよろしくお祈りいたします。

「今も、いつも世々に」 テレジア 岡田 久美

今年も教会の夾竹桃の花が爽やかな桃色と白に咲きそろうのを見ると、明治村に移転したあの天主堂を懐かしく思い出します。私自身が幼児洗礼、初聖体、堅信、結婚式、そして授かった二人の息子の洗礼も、お香のかおる“あの聖堂”でした。毎日曜日に家族そろって御ミサに与る幸せと喜びを感謝していました。

しかし、カトリックの洗礼を受けた者だけが教会に通い、御聖体を拝領し、たくさんのお恵みをいただくことだけが決してイエス様のお喜びではないと思います。すべての人が主の恵みをいただくために、教会は“社会に開かれた教会”としてこの地に建てられていることを思う時、まず聖書の講座にも多くの人々の参加をと願います。御ミサも、御聖体拝領こそできませんが、神父様からの祝福をいただくために、最近は大勢の方が列に加わり、イエス様に近づきたいとの思いを表しておられます。典礼の中で、洗礼等は御ミサに参列するすべての人々の祈りと祝福の中で、授けられた喜びを共に分かち合います。

一方で50年前とは異なり、一つの小教区にお一人の神父様がいつも常任してくださることはなくなりました。神父様は河原町教会でも十時半の御ミサの前に、ほかの教会で御ミサを捧げて、急いで来てくださるという現実があります。そんなお姿を拝見するたびに「神父様、どうかご無理なさいませんように」と祈り、「信徒ができることは奉仕しなければ」と痛感しております。

また、以前は御ミサにもたくさんの若者の姿がいましたが、近頃は働き盛りの方は日曜出勤もあり、学生はクラブ活動、アルバイトと各々の場で忙しい毎日なのではないでしょうか。そんな中、年を重ねた方々が頭を下げ、多分、息子や娘の家族や皆の幸せを神に祈っていらっしゃるのであろう、美しいお姿を拝見することができます。昔のように、これは罪、これも罪と「掟」にしばられることなく「主祷文」を唱えます。言葉は変化しても永遠に変わることのない「主の祈り」を唱えつつ、与えられた命を最後まで成し終えて「来よ、わが友よ。われ汝を見捨てじ」という神のみ声を聞ける日を待ちのぞみたいと思います。教会は「今も、いつも世々に」と信じて。

「最上のわざ」

イエズス会の故ホイヴェルス神父著『人生の秋に』より

この世で最上のわざは何？

楽しい心で歳をとり 働きたいけれども休み
しゃべりたいけれども黙り 失望しそうな時に 希望し
従順に平静におのれの十字架を担う

若者が元気いっぱい 神の道を歩むのを見ても ねたまず
人のために働くよりも 謙虚に人の世話になり

弱って もはや人のために 役立たずとも親切で 柔和であること

老いの重荷は 神のたまもの
古びた心に これ最後のみがきかける
まことの故郷へ行くために

おのれをこの世につなぐくさを
少しずつはずしていくのは真にえらいしごと
こうして何もできなくなれば謙遜に承諾するのだ

神様は最後に一番良い仕事を残してください

それは祈りだ 手は何もできない けれども最後まで合掌できる
愛するすべての人の上に 神の恵みを求めるために

すべてをなし終えて 臨終の床に 神の声を聞くだろう
「来よ、わが友よ、われ汝を見捨てじ」と



河原町教会6月4日評議会議事録要約

司祭団から＝①済州教区からのホン神父はカトリック会館にお住まいです。②高山右近の読書会終了後「ラウダート・シ」読書会の開催予定③モンロイ神父は7/2～10/2不在予定④ブロック行事:6/24典礼研修会(山科教会)、8/6平和祈願ミサ(山科教会)。9/3ブロック大会(伏見教会)。10/15病者のためのミサ(桃山教会)予定

小教区評議会役員研修会＝5/13開催。菅原神父の講話があり、グループに分かれて分かち合いを行った。河原町教会からの参加者4名

各部会報告＝(1)典礼部＝①6/4合同堅信式無事終了、受堅者は20名②6/17明治村旧聖堂ミサ:大塚司教と司祭8名の共同司式。6/18・10:30新聖堂建立50周年感謝司教荘厳ミサ③6/24・13:30ブロック典礼研修会開催。テーマ「ミサをよりよく祝うために ミサの構造と聖歌」(講師:北村神父・大塚神父)(2)財務部＝維持費納入依頼の方法を検討(3)教育部＝①土曜学校:①5/13遠足(自然文化園・国立民族学博物館)15名参加②6/3ゆるしの秘跡と講話・菅原神父 ②中高生会:①6/4堅信式・中学1年生4名②6/25コーヒーショップ開催予定(集会室)③エリの集い:6/24総会開催予定 ④信徒養成:①「主日の福音を読む集い」毎日曜9:30～10:15(301号)②待降節黙想会12/2(講師:菅原神父)⑤ブロック合同教育部会:5/13～14「中高生会のつどい」・5/14「青年のつどい」無事終了⑥キリシタン研究会:①5/14都の聖母奉賛ミサ開催。参加者約30名②5/22大阪キリスト教協議会から10名訪問、京都キリシタン史跡を案内③京都キリシタン研究会機関紙「証灯2017春季号」配布 ⑦ザビエル訪れ会:5月は活動休止(4)施設管理部＝①6/3復活祭アーチの撤去②6/10写真展用写真の飾り付け(5)広報部＝7月号は建立50周年感謝ミサの記事掲載のため、発行が第2日曜日となる。

行事予定＝4ページ行事予定欄に記載

協議事項＝(1)新聖堂建立50周年記念行事:①6/17明治村旧聖堂「50周年記念ミサ」バスツアーの申し込み者150名超で受付終了②6/18「新聖堂建立50周年感謝ミサ」は大塚司教と一場神父の共同司式。祝賀会:軽食準備(ヴィリオンホールと集会室)③写真展の飾り付けは施設管理部担当④7/2のオルガンコンサートのチケット販売続行⑤聖堂モニター:柱へ取り付け型を設置、聖歌隊と調整(2)洛東ブロック会議:①7/22・14:00例会開催(河原町教会)②ブロック年間行事:①求道者・地域の人々との交流＝教会のしおりの作成。巡礼者への対応を検討②「ラウダート・シ」読書会＝10月以降開催予定③ブロック大会＝9/3に伏見教会で開催予定④平和旬間行事＝8/6洛東ブロック平和祈願ミサ予定14:00(山科教会)

その他＝カトリック中央協議会発行「いのちへのまなざし」の信徒への配布を来週から開始

◇ 2017年7月・8月の行事予定 ◇
 (8月は予定です。変更の場合があります)

月	日	曜日	行 事 予 定
7	2	日	評議会7月例会 新聖堂建立50周年記念オルガンコンサート15:00
	9	日	ペトロ国本静三神父 司祭叙階50周年金祝感謝ミサ10:30
	22	土	洛東ブロック会議 (河原町教会) 14:00
	30	日	教会美化デー
8	5	土	～7日(月) 教区中学生広島平和巡礼
	6	日	主の変容 評議会8月例会 (日本カトリック平和旬間15日まで) 洛東ブロック平和祈願ミサ 14:00 (山科教会)
	8	火	～10日(木) 土曜学校錬成会
	13	日	平和旬間行事
	15	火	聖母の被昇天 ミサ7:00・10:30
	26	土	教区教会学校教師研修会 10:00
	27	日	田中司教霊名(ライムンド)のお祝い 10:30

新聖堂建立50周年記念ミサ [6月17日・18日] アルバムから



◆聖ザビエル天主堂のばら窓は、直径3.6mもある木製枠の二重窓です。江戸時代から伝えられた硝子絵の手法によって作られており、日本のステンドグラスとして珍しく貴重なもので、オリジナルは堂内に展示されています。



「カナの会」へのおさそい

皆さん、「カナの会」をご存知でしょうか。この会は結婚互助会として65年前に設立されたもので、京都府内の12小教区で結成され、委員が支えているボランティア組織です。年7回、河原町教会6階ホールにおいて結婚相談室を開いております。10月には「集い」(パーティー)もありますので、結婚をご希望の方は、こぞってお気軽にご出席ください。楽しみにお待ちしております。松谷 博幸(河原町教会担当委員)

2017年9月以降の「カナの会」予定

- ◇ 9月3日(日) 例会・結婚相談室 (13:30～15:00)
- ◇ 10月1日(日) “集い” 結婚相談室 (//)
- ◇ 12月3日(日) 例会・結婚相談室 (//)



河原町教会 ミサの時間

日曜日 (主日のミサ)

7:00

10:30

*英語ミサ 12:00 (第2・4週)

月曜日 6:30

火曜日 6:30 18:30

水曜日 6:30 18:30

木曜日 6:30

金曜日 6:30 18:30

土曜日 6:30

18:30 (主日のミサ)

信仰の学びのお知らせ

◇信仰入門講座◇

(1F集会室)

火曜日 10:00 モンロイ神父(7～9月休会)

水曜日 15:00 (祝休) 一場 修 神父

木曜日 19:00 (祝休) 一場 修 神父

金曜日 10:30 (祝休) 一場 修 神父

19:15 村上 透磨 神父

金曜日 17:30(洗礼準備講座)菅原 友明神父

※ご希望の方は教会事務室までご連絡ください

◇洛東ブロック信徒養成講座◇

【河原町教会】第1土曜日 19:30～20:30

菅原 友明神父

【山科教会】未定

【伏見教会】毎火曜日 10:00ミサ後～11:30

一場 修 神父

【桃山教会】毎火曜日 15:00 菅原 友明神父

◇南部地区信徒養成講座◇

(1F集会室/毎月1回水曜日)

大塚 乾隆神父「典礼を学ぶ」

7月 5日(水) 10:30～11:50

9月 6日(水) 10:30～11:50

◇南部地区信徒養成講座◇

(1F集会室/毎月1回木曜日)

北村 善朗神父「祈りを学ぶ」

9月28日(木) 14:00

10月19日(木) 14:00

テキスト:『カトリック教会のカテキズム要約』

◇主日の福音を読む集い◇

(3F・301号室)

毎週日曜日 9:30～10:15

※どなたでもお気軽にご参加ください。